

| | | | | |
|---|--|--------|---------|----------------------|
| 1. 科目名 (単位数) | 特別支援教育特論 (2 単位) | 池袋・名古屋 | 3. 科目番号 | EDMP5342 EDMP5334 |
| 2. 授業担当教員 | 柳本 雄次 | | | |
| 4. 授業形態 | 講義・演習 | | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | | | |
| 7. 講義概要 | 障害のある子どもは通常の教育支援だけでなく、特別な配慮と支援を必要としている。障害による学習困難にはさまざまな要因が関与し、生成過程も複雑でその様態はきわめて多様である。このため、個別に原因や実態の把握と専門的な対応が要求される。本講義では、障害以外の特別支援を含めての学習困難を類型化し、学習困難に対する特別支援教育に関する研究及び実践の知見を、講義や文献講読を通して学ぶ。 | | | |
| 8. 学習目標 | 1. 学習困難の多様性を認識し、関係領域の研究及び実践の知見を理解する。 2. 困難の実態把握から課題設定や指導計画立案、その実施と評価・改善のプロセス (PDCA) を理解し、適切に対応できる。 3. 教育現場で医学的・心理学的な理論や専門的な技法を個別のニーズに即して応用できる。 4. 特別支援教育と関係機関との連携を理解し、協働へのスタンスを持つ。 | | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 【アサインメント】 テーマに関連した資料を収集・講読し、授業で意見発表・討議する。 【レポート課題】 関心のあるテーマを選び、レポートを作成する。 | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 柳本雄次・河合康編著『特別支援教育(第3版)一人ひとりの教育訂ニーズに応じて』福村出版、2019。 【参考書】 市川宏伸監修『発達障害キーワード&ポイント』金子書房、2016。 東京都日野市公立小中学校／教育委員会『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍、2010。 玉村公仁彦他編著『キーワード特別支援教育 新版』クリエイツかもがわ、2019。 この他、特別支援教育・学習困難に関連する著書・論文等を随時取り上げる。 | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 特別支援教育に関連する研究及び実践の知見を理解できる。 事例に即した指導や協働支援について基本的な知識・技能・態度を習得する。 ○評定の方法 アサインメント(30%) 出席・授業態度(40%) レポート課題(30%) | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 障害その他の原因による学習困難は、生成プロセスに個体と環境の要因が互に関連し、その状態像は複雑かつ多様化します。このため、教育には一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別な配慮や支援が必要となります。また、関係する隣接領域(医学・心理学・福祉学)の専門的な知識・技能が求められます。関連の文献を講読して討議しつつ学習困難児の指導、特別支援教育のあり方を共に考えていきましょう。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 別途通知する | | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | | |
| 1. テーマ | 障害等による学習困難・特別な教育的ニーズとは何か | | | |
| 【学習の目標】 | ①学習困難の要因と生成プロセスを個体と環境との相互作用の観点から把握する。 ②個体の機能障害、特に発達障害の多様性を理解する。 | | | |
| 【学習の内容】 | ①学習困難について、DSM-5、学校教育法、発達障害者支援法等に基づき、操作的に定義する。 ②学習困難の生成プロセスに関して、ICFの障害概念、情報処理回路から検討する。 | | | |
| 【キーワード】 | ICF、DSM-5、発達障害、特別支援教育 | | | |
| 【学習の課題】 | 学習困難の概念について討議し、共通理解する。 | | | |
| 【参考文献】 | 『発達障害キーワード&ポイント』 | | | |
| 【学習する上での留意点】 | 学習困難は教育的概念であることを確認すること。 | | | |
| 2～3. テーマ | 特別支援教育と障害児教育システム | | | |
| 【学習の目標】 | ①特殊教育から特別支援教育への制度的転換について理解する。 | | | |
| 【学習の内容】 | ①特殊教育から特別支援教育への制度的転換の背景要因を知る。 ②特殊教育と特別支援教育とを比較することにより、理念、対象範囲、機能・役割、システムの差異を検討する。 | | | |
| 【キーワード】 | 特殊教育、特別支援教育、発達障害、障害者の権利条約、インクルーシブ教育 | | | |
| 【学習の課題】 | 特別支援教育に関する資料に基づき各自の見解を整理する。 | | | |
| 【参考文献】 | 『特別支援教育(第3版)一人ひとりの教育的ニーズに応じて』 | | | |
| 【学習する上での留意点】 | 特別支援教育制度のさらなる進展に着目すること。 | | | |
| 4. テーマ | 障害の医学的・心理学的研究と医療・治療 | | | |
| 【学習の目標】 | ①障害に関する医学的・心理学的研究による知見を理解する。 ②発達障害の知覚認知・運動・言語・社会性領域における発達の偏りについて理解する。 ③心理的アセスメントと専門的指導方法について知る。 | | | |
| 【学習の内容】 | ①脳科学研究の知見からみた障害の発症メカニズムについて ②発達障害の知覚認知・運動・言語・社会性領域における発達の偏りについて ③心理的アセスメントと専門的指導方法について | | | |

| | |
|--------------|--|
| 【キーワード】 | 機能的核磁気脳画像検査、実行機能、ワーキングメモリー、心の理論、心理検査(WISC-R、K-ABC、ITPA、太田ステージ他)、応用行動分析、SST 自閉症スペクトラム障害 |
| 【学習の課題】 | 医教連携の視点で医学的研究・治療と教育の総合的支援計画を検討する。 実態の評価結果に基づいた指導案の作成を試行する。 |
| 【参考文献】 | 安藤美華他・加戸陽子・眞田敏編著『子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス』、ミネルヴァ書房、2010。 榎原洋一『脳科学と発達障害—ここまでわかったそのメカニズム』中央法規、2007。 尾崎康子編著『知っておきたい発達障害のアセスメント』ミネルヴァ書房、2016。他の文献を参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 医学的・心理的情報の教育支援への適用に留意すること。 |
| 5～6.テーマ | 発達障害等各種障害と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①教育の観点から捉えた各種障害の概念を明確にする。 ②個々の障害児の特徴に応じたさまざまな理論(仮説)と指導方法を知る。 |
| 【学習の内容】 | ①発達障害等各種障害の特徴について確認する。 ②発達障害児の指導形態(分離 vs 包摂)、指導方法の活用について討議する。 |
| 【キーワード】 | 特別支援学校(級)、通級(個別)指導、インクルーシブ教育、LD,ADHD,ASD |
| 【学習の課題】 | 通常学級において各種障害の特徴に応じた指導を実施するために、学校として取るべき体制のことを基本に個人及びグループで学習を進める。 |
| 【参考文献】 | 『通常学級での特別支援教育のスタンダード』 安部博志『発達障害の子どもの指導で悩む先生へのメッセージ』明治図書、2010。 |
| 【学習する上での留意点】 | 脳の機能障害として知的・発達障害との異同を明確にすること。 |
| 7.テーマ | 知的障害の特徴と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①感覚・運動機能を活性化し、知的発達を促進させる理論・方法を知る。 ②自立と社会参加を図るための人間関係の形成やキャリア発達を図る方法を知る。 |
| 【学習の内容】 | ①知的障害の治療教育について、原点に立ち返りイタル・セガン・モンテッソーリの方法から学ぶ。 ②生活・経験に基礎をおく総合的学習や作業・進路指導など、独自の教育方法について討議する。 |
| 【キーワード】 | 知的障害、生理学的教育方法、感覚教育、総合的学習 vs 教科別学習、単元学習 vs 系統学習、 |
| 【学習の課題】 | 知的障害の特性に応じた独自の教育目標・方法のあり方の功罪を究明する。 |
| 【参考文献】 | 柳本雄次監修『これからの知的障害教育』明治図書、2010。 |
| 【学習する上での留意点】 | 学習指導要領改訂における知的障害児童生徒の教科の扱いに注目すること。 |
| 8.テーマ | 運動・健康障害児の特徴と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①疾患(病弱)の実態と医療処置による諸活動規制の影響を理解する。 ②入院による通常環境からの隔離と対処方法を学ぶ。 |
| 【学習の内容】 | ①起因疾患による学習及び生活環境の困難な実態と改善 ②学習困難解決のための院内教育の実践と課題について |
| 【キーワード】 | 母子分離、学習空白、愛着形成、長期施設入所・ホスピタリズム、院内学級・ベッドサイド授業、医教連携 |
| 【学習の課題】 | 医療による時間制約や環境隔離を解決する具体的方法を討議し、提起する。 |
| 【参考文献】 | 丹羽登監修『病気の子ども理解のために』全国特別支援学校病弱教育校長会、2008。 |
| 【学習する上での留意点】 | 病弱教育の最近の変化を抑えること。 |
| 9.テーマ | 情緒障害・自閉症 ASD の特徴と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①情緒障害・自閉症とは何か、概念を明確にする。 ②場面緘黙の定義・診断・指導について知る。 |
| 【学習の内容】 | ①自閉症は情緒障害かを主題に討議する。 ②精神的障害を含め、その教育と医療の連携を検討する。 |
| 【キーワード】 | 情緒障害、自閉症スペクトラム障害、場面(選択的)緘黙、摂食障害 |
| 【学習の課題】 | 情緒障害は脳器質的な要因と心理的・環境的な要因の複合であることを知る。 |
| 【参考文献】 | 『発達障害キーワード&ポイント』、内容に照らし関連する文献を取り扱う。 |
| 【学習する上での留意点】 | ここでは精神的疾患を含めて、その支援を検討すること。 |
| 10.テーマ | 児童虐待の特徴と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①児童虐待のメカニズムを知る。 ②児童虐待の問題解決への対応を学ぶ。 |
| 【学習の内容】 | ①虐待の種類、原因、機序、予防、関係機関の連携方策について ②被虐待児へのカウンセリング技法について。 |
| 【キーワード】 | 世代間連鎖、カウンセリング、児童相談所、児童養護施設、PTSD |
| 【学習の課題】 | 虐待を発見するポイントを知る。 |
| 【参考文献】 | 杉山登志郎『子ども虐待という第四の発達障害』学研、2007。 町野朔・岩瀬徹編『児童虐待の防止』有斐閣、2012。 |
| 【学習する上での留意点】 | 児童虐待と発達障害との関連に注意すること |
| 11.テーマ | 不登校の特徴と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①不登校の研究・実践から複雑な機序を理解する。 ②不登校改善の支援方法を知る。 |
| 【学習の内容】 | ①不登校の原因・現状について ②不登校の指導方法について |
| 【キーワード】 | 不登校の原因とメカニズム、養護教諭・保健室、スクールカウンセラー・適応指導教室・カウンセリング、 |
| 【学習の課題】 | ①不登校に至るさまざまな原因と複雑なメカニズムを理解する。 ②不登校への対応には医療・心理・教育関係者(保護者を含む)・機関との連携の必要性を認識する。 |

| | |
|--------------|--|
| | <p>【参考文献】 小野昌彦『学校・教師のための不登校支援ツール』 風間書房、2013. 他の関係文献を参照する。</p> <p>【学習する上での留意点】 発達障害によるいじめ・学習不振・不適応が不登校のきっかけになることに留意すること。</p> |
| 1 2 . テーマ | 身体障害児の機能障害(困難)への教育的支援(合理的配慮) |
| 【学習の目標】 | ①ふだんの授業において機能的障害の実態に応じて行われる配慮・支援の実態を知る。 ②試験等の際に障害実態に応じて講ぜられる合理的配慮としての特別な措置(支援)を知る。 |
| 【学習の内容】 | ①身体障害の種別に応じて、特別支援学校、特別支援学級及び通常学級において行われるハード面とソフト面の配慮・支援の事項を調べ、基礎的教育環境と合理的配慮に分類する。 ②日常場面でまだ配慮の対応がなく困難な事項について、具現化する方策・手続きを協議し明確化する。 |
| 【キーワード】 | 補助用具、支援工学、バリアフリー、手話、点字、基礎的教育環境、合理的配慮、ICTの活用 |
| 【学習の課題】 | 多様な配慮・支援の事項について、基礎的教育環境と合理的配慮の分類基準、合理的配慮の可否の基準を事例に即して把握する。 |
| 【参考文献】 | 文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」の合理的配慮実践事例のデータベースを活用する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 実践事例に関する情報収集作業を受講生が個々に時間をかけて行うこと。 |
| 1 3 . テーマ | 外国人児童生徒の特徴と教育的支援 |
| 【学習の目標】 | ①外国人児童生徒の学習及び生活の困難の実態を知る。 ②困難を克服する教育支援の基本的考えと方法を理解する。 |
| 【学習の内容】 | ①外国人児童生徒の学校における生活適応と学力問題の状況について ②児童生徒の日本語等の言語・コミュニケーション問題への対応について |
| 【キーワード】 | 学校適応、就学保障、日本語指導、母国語保障、多文化共生教育 |
| 【学習の課題】 | 異文化理解、多文化共生教育の観点から、外国人児童生徒への問題を捉え、その解決方法を討議する。 |
| 【参考文献】 | 宮島喬・太田晴雄編『外国人の子どもと日本の教育』東京大学出版会、2006. 他の文献を参照する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 実体験に基づく具体的な問題解決に取り組むスタンスを持つこと。 |
| 1 4 . テーマ | 通常学校における特別支援教育体制の整備(コーディネーターの役割) |
| 【学習の目標】 | 通常学校で実施されるべき特別な教育的ニーズへの対応を理解する。 |
| 【学習の内容】 | ①文部科学省の特別支援教育体制整備の要件について(全国レベルの実施状況) ②各地域(学校)における特別支援の先進的取組について |
| 【キーワード】 | 特別支援教育、合理的配慮、センター的機能・コーディネーター |
| 【学習の課題】 | 通常学級における取組のあり方を資料・見学・指導体験を基に議論する。 |
| 【参考文献】 | 『通常学級での特別支援教育のスタンダード』 筑波大学附属大塚特別支援学校編『子どもと家族を支える特別支援教育へのナビゲーション』明治図書、2006. 他 |
| 【学習する上での留意点】 | 発達障害教育は通常学級の課題であるという原点に立つこと。 |
| 1 5 . テーマ | 地域における関係機関の連携システムの構築 |
| 【学習の目標】 | 多種に及ぶ学習困難に対応する地域の関係領域の協働による連携実態とシステムを理解する。 |
| 【学習の内容】 | ①個別の学習困難に対する地域の関係領域の連携組織・活動実態について ②地域の関係領域連携システムのあり方について |
| 【キーワード】 | 教育相談所、児童相談所、保健所、福祉事務所、特別支援学校、障害児入所施設、児童発達支援(療育)センター、 |
| 【学習の課題】 | 学習困難を教育(学校)問題ではなく、関係領域(機関)の対応するマネジメントから捉え、考察する。 |
| 【参考文献】 | 近藤克則『医療・福祉マネジメント』ミネルヴァ書房、2007. |
| 【学習する上での留意点】 | 各実践を個別の(教育)支援計画の視点から見直すこと。 |